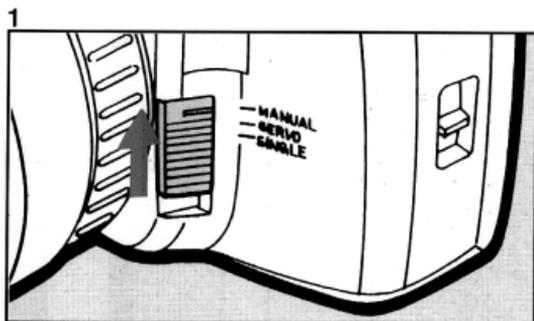


## Ⅲ 応用的な使い方



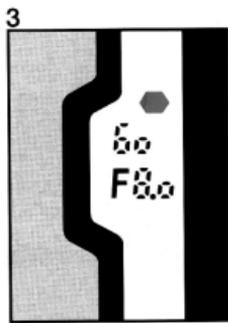
マニュアルフォーカスレンズを使う場合  
従来のKAやKマウントレンズで、開放F値がF5.6  
以上の明るいレンズ(F1.2~5.6)を使うと、ファイン  
ダー内の合焦表示  を利用した手動ピント合わせ  
ができます。

使い方

1. フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセット  
します。

Ⅲ  
応用的な使い方

36



2. ファインダーを覗きながらシャッターボタンを  
半押しした状態で、レンズの距離リングを左右  
に回してください。
3. ピントが合うとファインダー内の合焦表示  が  
点灯して知らせます。そのままシャッターボタ  
ンを押し切って撮影してください。

\* ピントが合うと、ファインダー内の合焦表示   
の点灯と同時に「ビピッ」と電子音が鳴ります。

\* KAFおよびKAF2マウントレンズを使用し  
ても、フォーカスモードレバーを **MANUAL** に  
セットすると同じ操作になります。

\* 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの  
「マウントアダプターK」で取り付けても、  
ファインダー内の合焦表示  によるピント合わ  
せはできません。

スナップインフォーカス撮影について

KAおよびKマウントレンズを使用して、フォーカ  
スモードレバーを **SINGLE** にセットすると、別売  
りのケーブルスイッチFなどを利用してピントが  
合ったときに自動的にシャッターが切れるスナッ  
プインフォーカス撮影ができます。

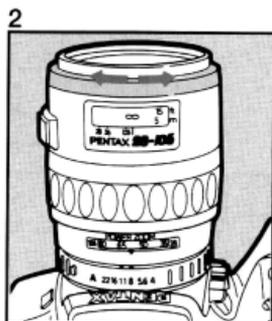
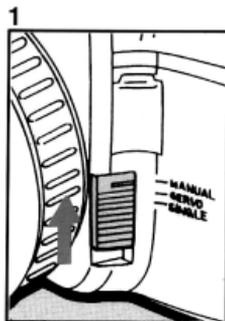
1. レンズはKAおよびKマウントレンズを使用し  
ます。
2. フォーカスモードレバーを **SINGLE** にセットし  
ます。
3. 写したいものが通りそうな位置にピントを合わ  
せます。
4. ケーブルスイッチFなどを使って、シャッター  
ボタンを押し切った状態にします。
5. 写したいものがピントを合わせた位置に来る  
と、自動的に撮影されます。

Ⅲ  
応用的な使い方

### オートフォーカスが使えない場合

以下の理由で、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示  が使えない場合は、ファインダーのマット面を利用して従来の一眼レフカメラと同様に手動でピント合わせをしてください。

- 「オートフォーカスの苦手な被写体」で合焦表示  が点滅するとき。
- 開放F値がF5.6より暗いレンズを使っているとき。
- ベローズ100mm F4、シフト28mm F3.5(シフト状態)、レフレックスタイプのレンズを使用したとき。
- 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けて使用したとき。

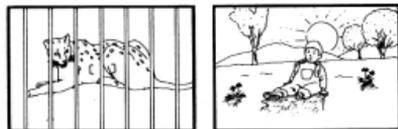
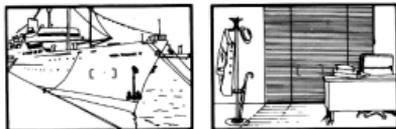


### 使い方

- フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットします。
- ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを左右に回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。

応用的な使い方

## (2) オートフォーカスの苦手な被写体



- A F フレーム  に白い壁などの極端にコントラスト(明暗差)の低い被写体がある場合。
- A F フレーム  に光を反射しにくい被写体がある場合。
- 非常に速い速度で移動している被写体。
- A F フレーム  に横線のみ被写体や細かな模様被写体がある場合。
- 遠近のものがA F フレーム  の中で同時に存在する場合。
- 反射の強い光、強い逆光(周辺が特に明るい被写体)。

オートフォーカス機構はきわめて高精度のものが、万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。ファインダー内の合焦表示  を利用してピント合わせを行なう手動ピント合わせも同様です。そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロックをしたり、フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

### アクセサリーの注意

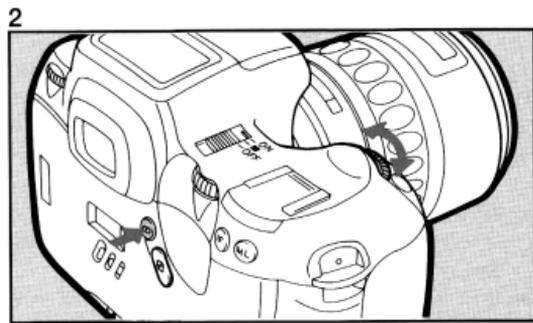
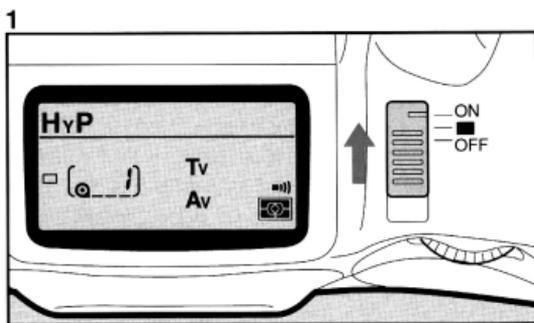
以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示  を利用した手動ピント合わせができません。ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをしてください。

- 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使った場合。
- オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときは円偏光フィルターをご利用ください。
- 「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

### SMCペンタックスFソフト85mm F2.8使用時の注意

約1.5mより近距離の撮影をするときは、レンズの絞りをF2.8～4.5でご使用ください。これより小絞り(F5.6～32)にすると、カメラのオートフォーカス(FIも同様)が誤合焦することがあります。F5.6以上の絞riを使う場合には、一旦レンズの絞りをF4.5に合わせてピント合わせを行ない、フォーカスロックをしたまま希望の絞りに戻して撮影してください。

## (3) 測光モードの切り替えについて



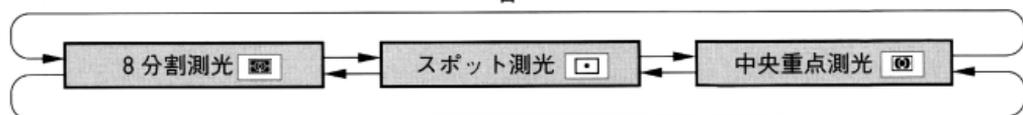
Z-5 Pは、撮影者の好みで測光モードを分割測光から中央重点測光あるいはスポット測光に切り替えることができます。

スポット測光は被写体の限られた部分だけに露出を合わせたいときなどに、また、中央重点測光は経験的に露出補正をして撮影したいときなどにご利用ください。

### 切り替え方法

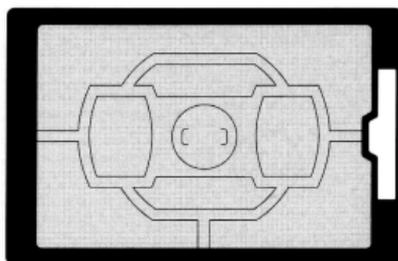
- 電源スイッチを **ON** にします。
- 測光モード切り替えボタン  を押しながらか Tv ダイレクトダイヤルを回して希望する測光モードを選びます。

右へ



左へ

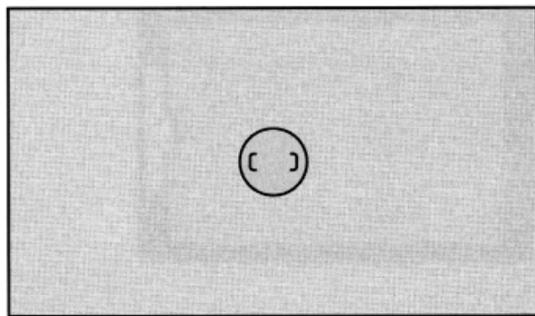
- \* 電源スイッチがグリーンポジションでは、測光モードは分割測光になり測光モードの切り替えはできません。
- \* レンズ情報接点のないレンズ(Aレンズより前のレンズ)を使用したときは、分割測光は使用できませんので、中央重点測光かスポット測光をご利用ください。電源スイッチがグリーンポジションでは、中央重点測光だけとなります。
- \* A50mmF1.2レンズの場合、絞りA位置以外では分割測光になりません。



### 8分割測光について

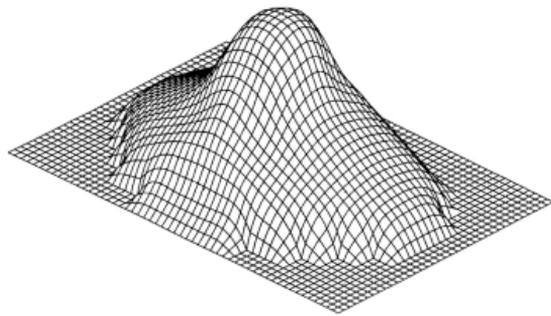
Z-5Pは、高精度のTTL 8分割測光モードが採用されています。図のように画面の中を分割して測光を行ない、様々な光の条件下で最適な露出を得ることができます。

例えば、従来の平均測光方式では逆光の人物撮影のときなどに、背景の明るい部分が全体の露出に影響を与えるため、写したい人物がどうしても暗くなってしまう。これに対して分割測光では、画面のどの部分にどんな明るさのものがあるのかカメラが判断し、そのまま撮影しても人物が暗くならないように露出を決定します。その他、逆光以外の明暗差がある条件下でも画面を分割して露出値を計算し、自動的に露出補正をしますから、初心者の方でも安心して撮影を楽しんでいただけます。



### スポット測光について

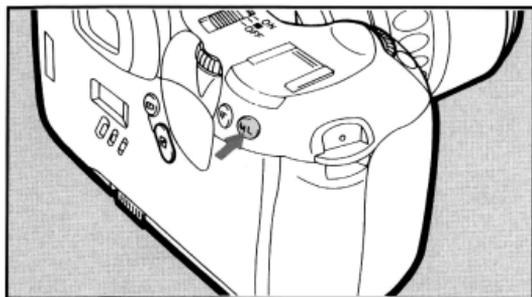
図のように、ファインダー中央部の限られた範囲だけで露出を測りますので、この部分に露出を合わせたい被写体を入れて撮影してください。ただし、この部分と他の部分の明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまうことがあります。



### 中央重点測光について

中央重点測光では、8分割測光のように逆光のときなどに、カメラが自動的に露出を補正することはありませんので、経験的に露出を補正して撮影したい場合などにご利用ください。

測光分布は、上図のようになっており、高さが高い部分(中央部分)ほど感度が良くなっていることを表しています。



#### メモリーロックについて

メモリーロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。

被写体が非常に小さく、適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

露出を合わせたい物がスポット測光の範囲いっぱいに入るようにして、メモリーロックボタン **ML** を押し、好みの構図に戻してから撮影します。

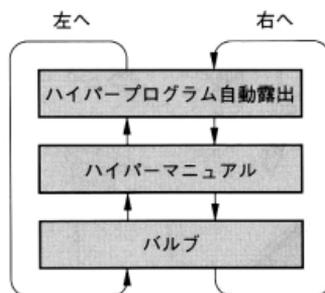
- \* メモリーロックボタン **ML** を押すと10秒間タイマーが働き、露出が記憶されます。
- \* メモリーロック中に、シャッターボタンを半押ししたままにすると、メモリーロックボタン **ML** から指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。
- \* メモリーロックボタン **ML** を押したときに、オートフォーカスが作動しフォーカスロックしてから露出を固定するように変更できます。変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)
- \* メモリーロックボタン **ML** を押すと電子音が鳴ります。
- \* メモリーロック中は、ファインダー内に **\*** が表示されます。
- \* メモリーロック中にメモリーロックボタン **ML** をもう一度押すと解除できます。

## (4) 各露出モードを選びます

電源スイッチを **ON** (フルスベックポジション) にします。

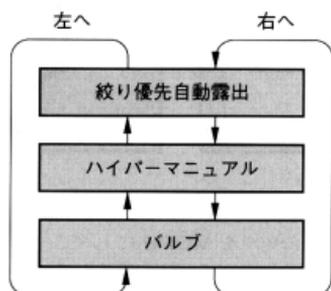
#### 絞りがA位置の場合

右図のように矢印の順で3つの露出モードを切り替えます。それぞれの露出モードについては、各ページの説明をご覧ください。



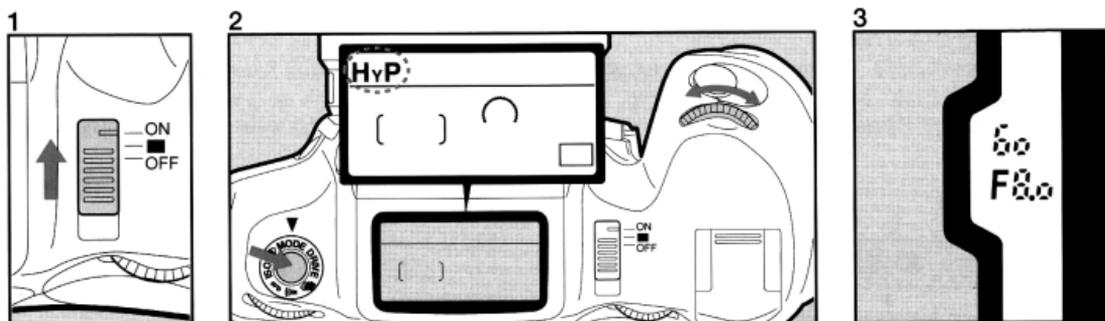
### 絞りがA位置以外の場合

絞りがA位置以外では、下図のように3つの露出モードを切り替えられます。モードの変え方は、絞りがA位置の場合と同様です。



以下の場合には、絞りをA位置から外してご使用ください。なお、Aレンズより前のレンズ(Aポジションのないレンズ)を使用する場合も同様の扱いになります。

- ・プレビューボタンにより被写界深度を確認する場合。
- ・接写リングなど、絞りの連動がきかないアクセサリーを使用した場合。
- ・旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないもの。



#### 1) ハイパープログラム自動露出の使い方

ハイパープログラム自動露出は、プログラム自動露出(22ページ参照)でありながら、ワンタッチでシャッター速度優先自動露出や、絞り優先自動露出に切り替えられるモードです。

絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HyP** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞りが表示されます。

シャッター速度を変えたい場合

Tvダイレクトダイヤルを回すと、即座にシャッター優先自動露出に切り替わります。

\* シャッター速度は、絞り値が連動する範囲内でしか設定できません。

シャッター速度の自動シフトをサービス窓口で禁止(有料)した場合を除く。

\* 明るさが変わり、絞り値が連動範囲外になったときは、自動的にシャッター速度がシフトし、表示パネルの $\square$ とファインダー内のシャッター速度表示の下の横棒が点滅します。

自動的にシャッター速度がシフトしないように変更できます。

変更はサービス窓口にご用命ください。

\* **IF** ボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。このとき、電子音が鳴ります。

※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご利用ください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

絞りを変えたい場合

Avダイレクトダイヤルを回すと、即座に絞り優先自動露出に切り替わります。(52ページ参照)

\* 絞り値は、シャッター速度が連動する範囲内でしか設定できません。

絞り値の自動シフトをサービス窓口で禁止(有料)した場合を除く。

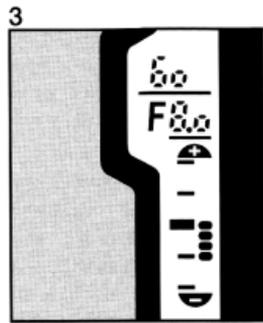
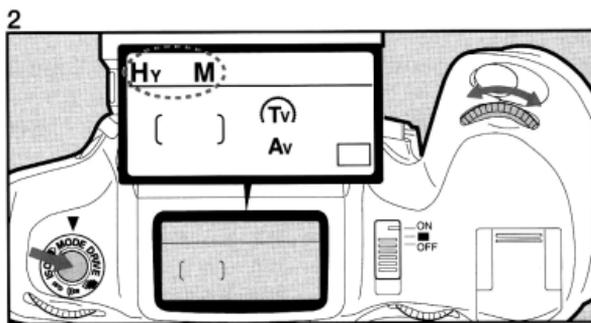
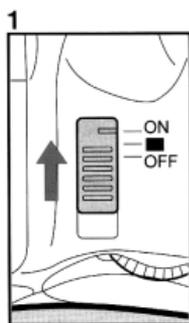
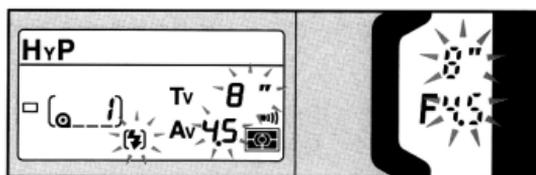
\* 明るさが変わり、シャッター速度が連動範囲外になったときは、自動的に絞り値がシフトし、表示パネルの $\square$ とファインダー内の絞り値表示の下の横棒が点滅します。

自動的に絞り値がシフトしないように変更できます。

変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)

\* **IF** ボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。このとき、電子音が鳴ります。

※



## 2) ハイパーマニュアル露出の使い方

シャッターボタンを半押しすると、露出計が働きます。露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で撮影することもできます。

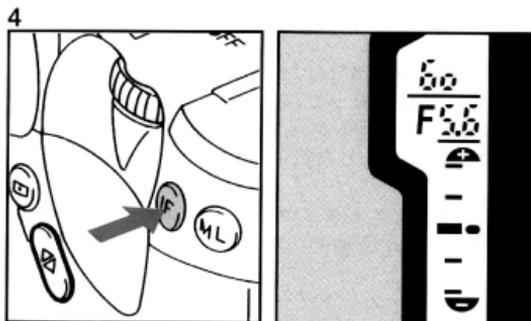
Z-5pのハイパーマニュアルには、ボタン操作一つで瞬時に適正露出が得られる便利な機能があります。

絞りをA位置にした場合

1. 電源スイッチを **ON** にします。

2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HyM** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、絞り値とバーグラフが表示され、表示パネルにもバーグラフが表示されます。

\* 表示パネルの $\square$ と $\square$ およびファインダー内のシャッター速度と絞り表示の下の横棒は、TvダイレクトダイヤルとAvダイレクトダイヤルによって、シャッター速度と絞り値が変更可能であることを表しています。



4. **IF** ボタンを押すと、シャッター速度と絞り値が自動的に切り替わり、即座に適正露出が得られます。

\* 表示パネルとファインダー内のバーグラフの中心に黒丸が移動して適正露出を知らせます。その後、**A** vダイレクトダイヤルで絞りを、**T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えれば、好みの露出値で撮影することができます。

\* **IF** ボタンを押すと、絞り、シャッター速度が変化します。

このとき電子音が鳴ります。

\* **IF** ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、明るさが変化しても常に適正露出が得られるように、シャッター速度と絞り値が変化しますので、プログラム自動露出と同じ使い方ができます。

\* 表示パネルのバーグラフの黒丸が **+** 側（ファインダー内は **▲**）に並んでいるときは露出がオーバー、**-** 側（ファインダー内は **▼**）に並んでいるときは露出がアンダーです。バーグラフの黒丸1個は0.3EVに相当します。ただし、±2EVを越えてオーバー、アンダーになったときは表示パネルの **+**（ファインダー内は **▲**）あるいは **-**（ファインダー内は **▼**）が点滅します。

\* 被写体が明るすぎたり暗すぎて、測光範囲外になったときは、ファインダー内と表示パネルのシャッター速度と絞り値表示の両方が点滅します。NDフィルター（明るい場合）やストロボ（暗い場合）などをご利用ください。

### メモリーロックとの組み合わせ

絞りがA位置のハイパーマニュアルのとき、メモリーロックボタン **ML** を押して、露出値を記憶させることができます。（43ページメモリーロック参照）この状態で、**T** vダイレクトダイヤルを回してシャッター速度を変えるとそれに応じて絞り値が、逆に**A** vダイレクトダイヤルを回すとそれに応じてシャッター速度が変化し、同じ露出値を保ちます。

### 使用方法

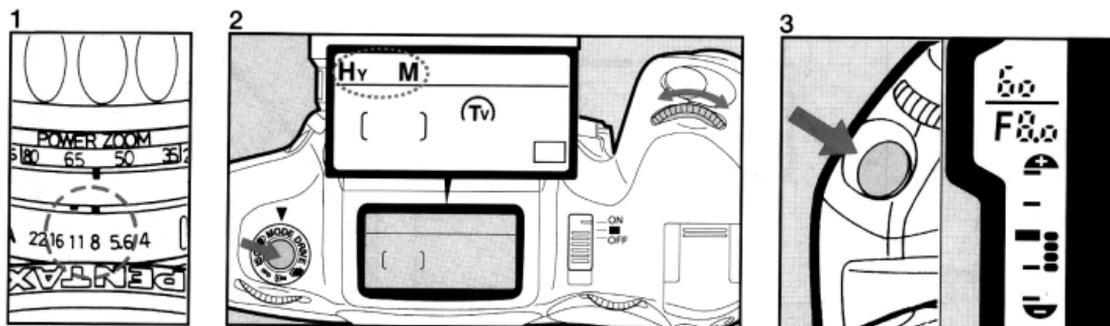
1. 絞りをA位置にする。
2. 露出モードをハイパーマニュアルにする。
3. メモリーロックボタン **ML** を押して露出値を記憶させる。
4. **T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を、**A** vダイレクトダイヤルで絞り値を変化させます。

### (例)

シャッター速度が1/125秒、絞り値がF8でメモリーロックを行なった場合。

- ・ **T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/250秒にすると自動的に絞り値はF5.6に変わります。
- ・ **T** vダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/60秒にすると自動的に絞り値はF11に変わります。
- ・ **A** vダイレクトダイヤルで絞り値をF5.6にすると自動的にシャッター速度は1/250秒に変わります。
- ・ **A** vダイレクトダイヤルで絞り値をF11にすると自動的にシャッター速度は1/60秒に変わります。

このように、メモリーロック後にシャッター速度や絞り値を変化させても、常に同じ露出値を保ちます。

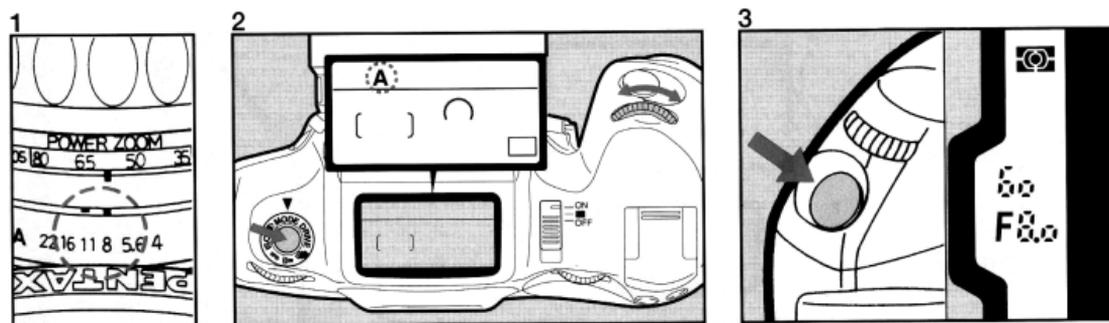


絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
  2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HyM** の表示を出します。
  3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに設定絞りの目安およびシャッター速度とバググラフが表示されます。絞りリングで絞りを、Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。
- \* 露出の合わせ方と露出警告は、絞りがA位置の場合と同じですが、**IF**ボタンを押すとシャッター速度だけが切り替わります。(49ページ参照)

- \* FAおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
- \* **IF**ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、シャッター速度が明るさによって変化しますので、絞り優先自動露出と同じ使い方ができます。
- \* プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。

応用的な使い方



### 3) 絞り優先自動露出の使い方

絞りをA位置以外にします。

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに絞り値の目安とシャッター速度が表示されます。

- \* 電源スイッチがグリーンポジション **■** で、絞りをA位置以外にした場合もこのモードになります。
- \* プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。なお、プレビューボタンを押したままシャッターを切ると、正しい露出が得られません。

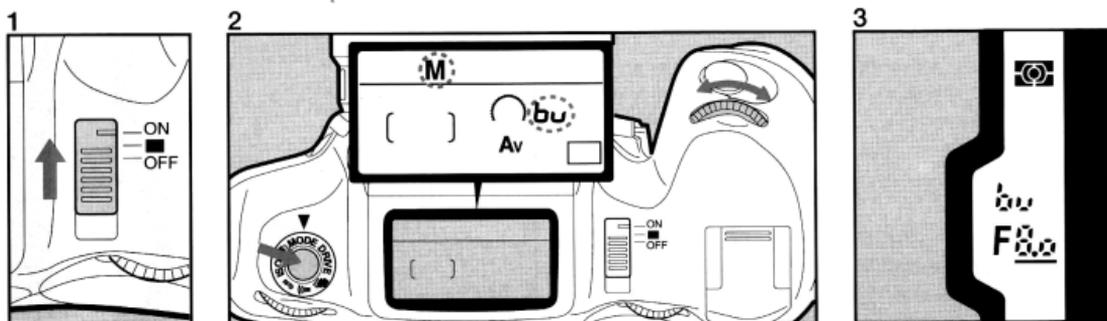
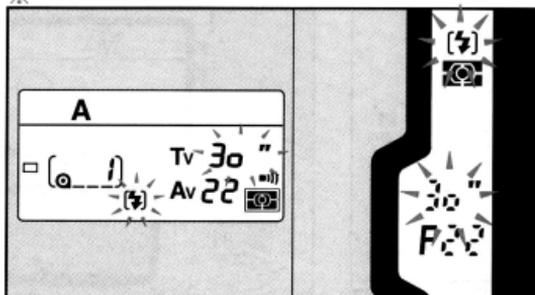
- \* FAおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません

### ※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルのシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側(数字の大きい方)に、暗すぎるときは絞りを開放側(数字の小さい方)にして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。

※



#### 4) バルブの使い方

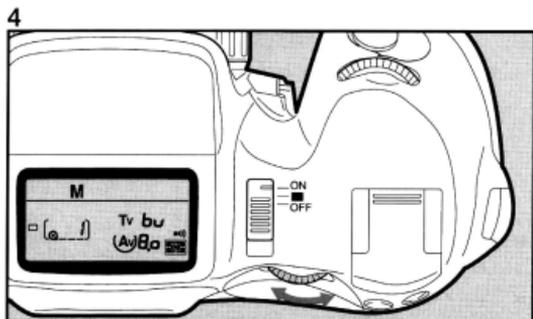
花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

- \* 新品のリチウム電池(常温)で、約6時間の長時間露出ができます。
- \* シャッターボタンを押している間、表示パネルの右上に露出時間の目安が表示されます。

#### 絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを **ON** にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **M** と **bu** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に **bu** と絞り値が表示されます。

- \* 表示パネルの **U** およびファインダー内の絞り表示の下の横棒は、Avダイレクトダイヤルによって絞り値が変更可能であることを表わしています。



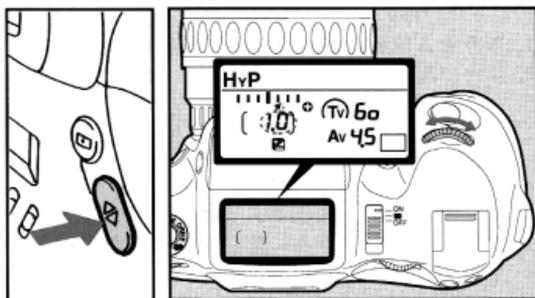
4. Avダイレクトダイヤルで絞りを選びます。

絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに**M**と**bu**の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に**bu**が表示されます。また、ファインダー内と表示パネルに絞り値の目安が表示されます。

- \* F AおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
- \* プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
- \* バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチF」をレリーズソケットキャップFDを外してからレリーズソケットに差し込んでご利用ください。

## (5) 露出補正について



意図的に露出オーバー（明るい写真）や露出アンダー（暗い写真）にしたいときに露出を補正するために使います。

セット方法

露出補正ボタン  を押したままTvダイレクトダイヤルを回して希望の補正值を選びます。

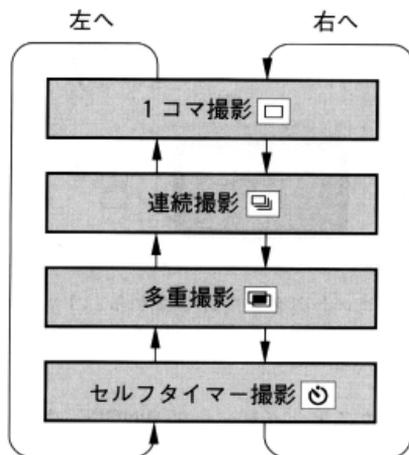
- \* 補正は-4 ~ +4 E Vの範囲で0.5 E Vごとに行えます。

露出補正のステップを0.3 E Vに変更することができます。

変更はサービス窓口にご用命ください。（有料）

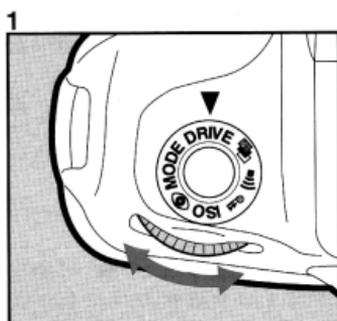
- \* バーグラフの黒丸の移動量1つが0.5 E V（補正ステップが0.3 E Vのときは0.3 E V）に相当します。ただし、-3 ~ +3 E Vを越えて設定した場合（補正ステップが0.3 E Vのときは-2 ~ +2 E V）は、表示パネルのバーグラフの （ファインダー内は ）あるいは （ファインダー内は ）が点滅して知らせます。
- \* 露出補正中は、表示パネルとファインダー内にバーグラフと  が表示されます。
- \* ハイパーマニュアルのときのバーグラフの表示は、露出計が働いている間は露出のオーバー・アンダーを示す表示がされますが、露出計がOFFになると露出補正值の表示になります。
- \* 電源スイッチを切っても露出補正は解除されません。
- \* 電源スイッチがグリーンポジション  の場合は、露出補正は働きません。

## ドライブモードの種類



-  : シャッターボタンを押し切ると、1コマだけシャッターが切れます。
-  : シャッターボタンを押し切っている間、連続的にシャッターが切れます。(58ページ)
-  : 同じコマに、重ねて撮影します。(59ページ)
-  : セルフタイマー撮影をします。(62ページ)

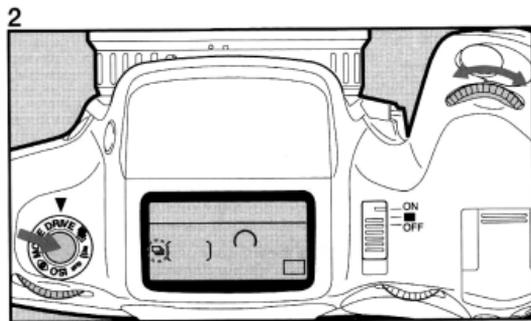
\* 電源スイッチがグリーンポジション  の場合はドライブモードは1コマ撮影だけになります。



## 1) 連続撮影の使い方

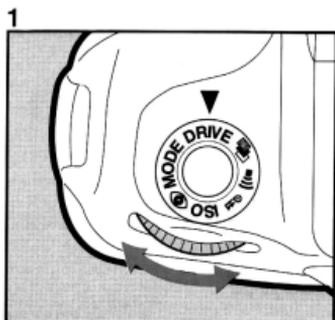
シャッターボタンを押ししている間、連続的にシャッターが切れます。

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせます。



2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに  を表示させます。

- \* フォーカスモードレバーが **SINGLE** では、ピント合わせは1コマ目のみ行なわれます。2コマ目からは、1コマ目で合わせたピントのままシャッターが連続的に切れます。再びピント合わせを行なうには、シャッターボタンから一旦指を離してください。
- \* 内蔵ストロボを使うときは、充電が完了してからシャッターが切れます。

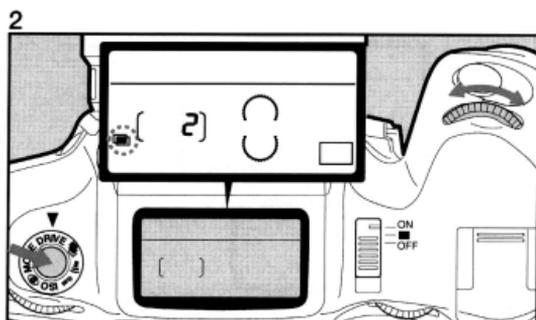


## 2) 多重露出撮影の使い方

フィルムの同じコマに重ねて撮影できますので、アイデア次第で面白いトリック写真などを作ることができます。

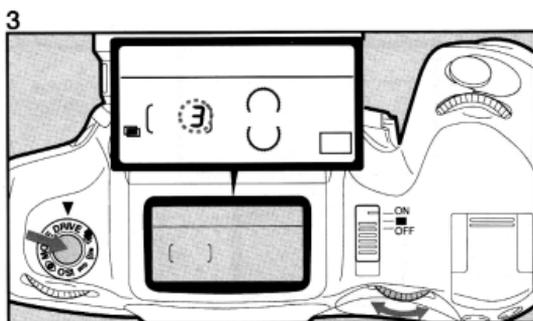
多重露出では、背景が黒いもの(夜景など)に人物などをストロボ撮影で重ねると比較的良い結果を得ることができます。

1. モードダイヤルを[DRIVE]に合わせます。



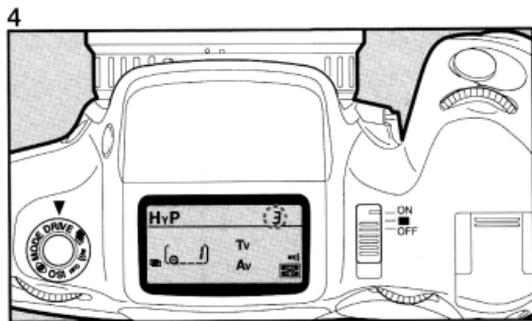
2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに[ ]を表示させます。

応用的な使い方



3. モードセットボタンを押したまま、Avダイレクトダイヤルを回して、多重露出の回数(1コマの中に写し込む回数)を決めます。

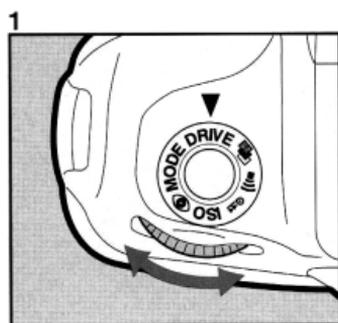
\* 1回の多重露出で設定できる写し込み回数は、2～9回です。



4. モードセットボタンから指を離すと、設定した回数が表示パネルの右上に表示されます。

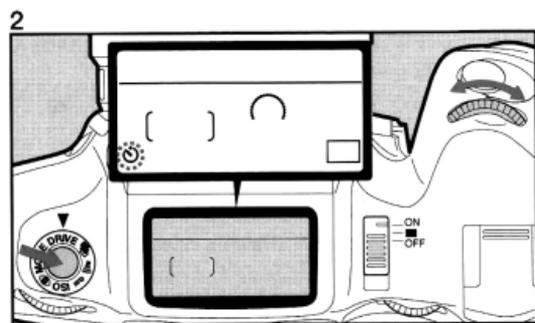
応用的な使い方

- \* シャッターボタンを押して撮影する度に回数表示は減算されます。
- \* 多重露出の途中は、LCD表示パネルの  が点滅してお知らせします。
- \* 多重露出撮影を途中で解除したいときは、他のドライブモードに変更するか、電源スイッチを **OFF** がグリーンポジション  にしてください。なお、電源スイッチで解除した場合は、電源スイッチを **ON** に戻したとき、1コマ撮影モード  になります。
- \* 撮影終了後は多重露出の回数設定は2に戻り、ドライブモードは1コマ撮影  になります。

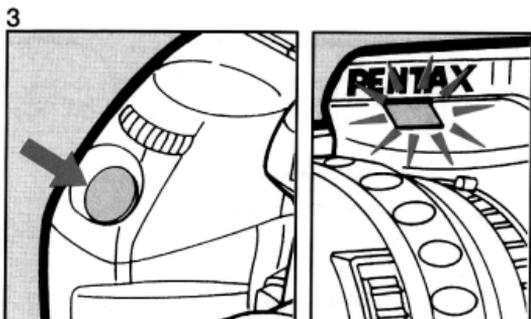


3) セルフタイマー撮影の使い方  
セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせます。

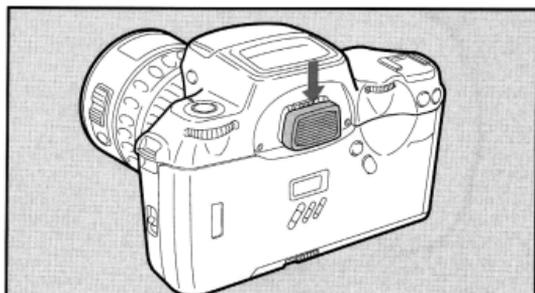


2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに  を表示させます。



3. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを合わせたままシャッターボタンを押し切ると、セルフタイマーが始動し、約12秒後にシャッターが切れます。

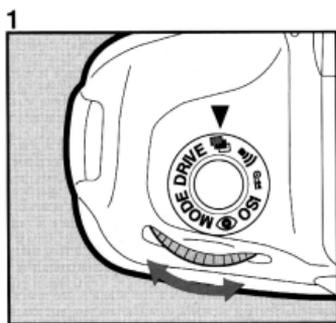
- \* セルフタイマーの作動中は、セルフタイマーランプと電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ピッピッピッ」になります。
- \* セルフタイマーを始動後に中止したいときは、電源スイッチを [OFF] にしてください。この場合、セルフタイマー撮影モードは解除されません。



\* セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光により露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時はメモリーロックや(43ページ参照)付属のファインダーキャップをご利用ください。

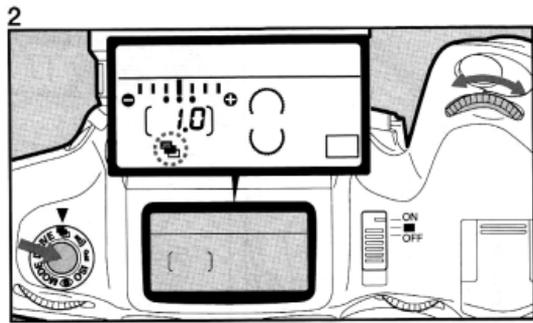
応用的な使い方

## (7) オートブラケットング撮影の使い方



オートブラケットングは、撮影時に露出補正が必要な被写体で、最終的な補正值を決定しにくいときなど、3コマ連続の段階露出を行なうことができます。Z-5Pでは、露出モードがハイパープログラムあるいは絞り優先でオートブラケットング撮影が可能です。

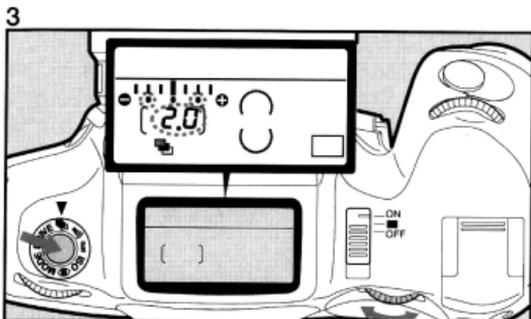
- \* 電源スイッチがグリーンポジション [ ] では、オートブラケットング撮影はできません。



1. モードダイヤルを [ ] に合わせます。
2. モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに [ ] を表示させます。

- \* 表示パネルにバーグラフと補正值が表示されます。このとき、シャッターボタンを半押しするとファインダー内にもバーグラフが表示されます。

応用的な使い方



3. モードセットボタンを押したままA vダイレクトダイヤルを回して、補正量を決めます。

- \* 補正は-4 ~ +4 EVの範囲で0.5EVごとに行えます。補正のステップを0.3EVに変更することができます。変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)

- \* バーグラフの黒丸の移動量1つが0.5EV(補正ステップが0.3EVのときは0.3EV)に相当します。ただし、-3 ~ +3EVを越えて設定した場合(補正ステップを0.3EVにしたときは-2 ~ +2EV)は、表示パネルのバーグラフの $\oplus$ (ファインダー内は $\triangle$ )あるいは $\ominus$ (ファインダー内は $\nabla$ )が点滅して知らせます。

4. シャッターボタンを押し切ると、記憶させた補正量に従って3コマ連続的に撮影されます。

- \* 1コマ目は $\pm 0$ 、2コマ目はアンダー露出、3コマ目はオーバー露出の順で撮影されます。
- \* 電池を入れ替えるまでは前回の補正量が残っています。

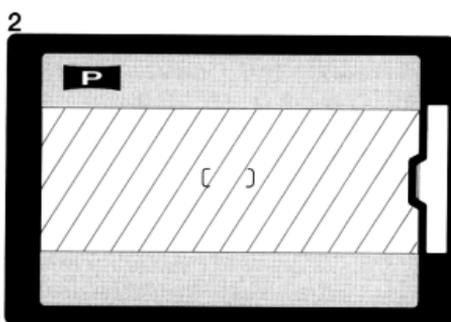
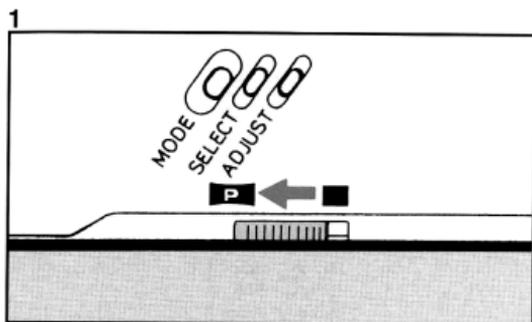
- \* 1コマ目の撮影終了後、シャッターボタンを半押しに戻すと、表示パネルの $\square$ が点滅して2コマ目の撮影の待機状態となり、シャッターチャンスを待つことができます。このとき、シャッターボタンから指を離した場合、表示パネルの $\square$ は約20秒間点滅した後点灯に変わり、再度1コマ目の待機状態に戻ります。
- \* 補正量が小さい場合、ネガフィルムではほとんど効果が得られませんのでご注意ください。(特にネガカラーのオートプリント仕上げの場合。)
- \* オートブラケット撮影中は、1コマごとに測光を行いません。
- \* ピントは、1コマ目の撮影位置でフォーカスロックされます。

#### 露出補正と組み合わせて使う場合

「露出補正」(56ページ)と組み合わせて使うと、例のようにオーバー方向(+のみ)やアンダー方向(-)のみの、より高度なオートブラケット撮影が可能です。

例) オーバー方向だけの補正をかけるとき。

1. オートブラケットの補正量を $\pm 0.5EV$ に設定する。
2.  $+0.5EV$ の露出補正をかける。(56ページ参照)
3. この状態でオートブラケット撮影をすれば、1コマ目= $+0.5EV$ ・2コマ目= $\pm 0EV$ ・3コマ目= $+1.0EV$ の補正がされます。



「Z-5P」では、撮影途中でも自由にパノラマと標準撮影とを切り替えることができます。

パノラマ撮影では横長(フィルム上で13×36mm)に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

#### 1. パノラマ撮影に切り替えます

パノラマ切り替えスイッチを **P** に合わせるとパノラマ撮影モードになります。

\* パノラマ切り替えスイッチのセットは、パノラマ撮影  か標準撮影  どちらかの止まる位置まで確実に動かしてください。

#### 2. 撮影します

パノラマの視野枠内(斜線部分)に写したいものを入れて撮影してください。

- \* シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に  が表示されます。
- \* プリントする際に画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を取っておくと安心です。
- \* パノラマ撮影モードでは、デートを写し込み可能な状態にしても、デートは写し込まれません。

#### パノラマプリントについて

パノラマモードで撮影されたフィルムの現像/プリントをご依頼になるときは、必ず付属のパノラマシールをフィルム(パトローネ)に貼り、パノラマプリントをご指定ください。

- ・ パノラマと標準撮影を途中で切り替えて撮影した場合 →



- ・ フィルム全数をすべてパノラマで撮影した場合 →

